

論文 / 著書情報
Article / Book Information

題目(和文)	
Title(English)	Comparative Study of the Trajectories of Chinese International Students who Graduated from Japanese Universities and Australian Universities
著者(和文)	LIUTongrui
Author(English)	Tongrui Liu
出典(和文)	学位:博士(学術), 学位授与機関:東京工業大学, 報告番号:甲第12476号, 授与年月日:2023年3月26日, 学位の種別:課程博士, 審査員:佐藤 由利子,村山 武彦,木内 豪,錦澤 滋雄,高橋 史武
Citation(English)	Degree:Doctor (Academic), Conferring organization: Tokyo Institute of Technology, Report number:甲第12476号, Conferred date:2023/3/26, Degree Type:Course doctor, Examiner:,,,,
学位種別(和文)	博士論文
Category(English)	Doctoral Thesis
種別(和文)	審査の要旨
Type(English)	Exam Summary

論文審査の要旨及び審査員

報告番号	甲第	号	学位申請者氏名	Tongrui Liu	
論文審査 審査員		氏名	職名		
	主査	佐藤由利子	准教授	高橋史武	准教授
	審査員	村山武彦	教授		
		木内豪	教授		
錦澤 滋雄		准教授			

論文審査の要旨 (2000 字程度)

本論文は、「Comparative Study of the Trajectories of Chinese International Students who Graduated from Japanese Universities and Australian Universities」と題し、全7章からなる。

第1章「Introduction」では、過去20年間に中国からの留学生が飛躍的に増大し、主な留学先は米国、豪州、英国、日本であること、日本と豪州は、中国からの距離や時差が相対的に小さく、米国留学に必要な資金や奨学金（獲得に必要な学力）が不足する者が選択するという共通点があることを示した上で、日本と豪州に留学した中国人学生の軌跡を、留学先選択時、卒業後の就職先選択時、調査回答時点という3時点に着目して比較するという本研究の目的を提示している。

第2章「Literature review」では、中国人留学生の留学動機、帰国動機、日本と豪州への留学生に関する研究をレビューし、中国人留学生の軌跡を比較・分析した研究が不足することを指摘している。

第3章「Research framework and methodology」では、プッシュ・プルモデルと人生計画モデルを踏まえて作成した研究フレームワークと、定量的質問紙調査と定性的聞き取り調査を組み合わせた混合調査法により、日本と豪州に留学した中国人学生を比較するという研究の手法を示している。

第4章「Comparative study of stayers」では、日本と豪州に留学した中国人学生のうち、卒業後に留学国で働く者の軌跡を、質問紙調査（日本留学生270名、豪州留学生83名）と聞き取り調査（日本留学生5名、豪州留学生5名、企業の人事担当者、日豪各3名）に基づき比較した。分析の結果、日本留学は学費の安さと文化への関心が、豪州留学は家族の勧めが誘因になっていること、職場環境への満足度は豪州留学生の方が高く、留学国への定着傾向も強いことを示し、その背景に、高等教育の国際化政策、移民政策、年功序列／能力給などの人事管理制度の影響の可能性があると論じた。

第5章「Comparative study of returnees」では、中国に帰国した日本留学生と豪州留学生のうち、企業に勤務する者の特徴や軌跡を、質問紙調査（日本留学生85名と豪州留学生58名）と聞き取り調査（日本留学生7名、豪州留学生6名、中国企業の人事担当者2名）に基づき比較した。分析の結果、日本留学生は製造業分野、日本企業で働く者が多く、職場環境への満足度は相対的に低いものの、日中の市場の架け橋として貢献しているという意識が強いこと、豪州留学生は教育分野、中国企業で働く者が多く、英語や西洋文化に関する助言で貢献していると答える者が多いことを示し、その背景には、日中、日豪間の貿易・直接投資の額や分野、企業文化の違いの可能性があると推定した。

第6章「Comparative study of those who working in the host country and those who working in China」では、日本留学生のうち、日本で働く者292名と帰国した者169名、豪州留学生のうち、豪州で働く者97名と帰国した者113名の主な属性を比較し、日本留学生中の帰国者では、男性、学部卒業生、理工系専攻者の割合が高いこと、豪州留学生中の帰国者でも男性の割合が高いが、学位については修士号、博士号取得者、専攻は経営専攻者の割合が高いことを示し、留学国の移民政策や中国の帰国奨励政策の影響があると推定している。

第7章「Conclusion」では、本研究で得られた成果を総括し、研究上の制約と今後の研究課題について述べている。

以上より、本研究は、日本と豪州に留学した中国人学生の留学先選択や就職先選択の理由、職場環境の満足や貢献分野の特徴などについて、質問紙調査と聞き取り調査に基づいて実証的に明らかにするとともに、それぞれの選択や意識の背景に、留学国の高等教育政策、移民政策、留学国企業の人事管理制度、留学国と中国の経済関係などの影響の可能性があると論じており、国際高等教育分野や移民政策分野における学術的貢献は大きい。よって、博士（学術）に値するものと認められる。